

■開催地挨拶：唐津市長 坂井 俊之



唐津市長の坂井でございます。開催地を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、先ほど開催されました日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会、皆様方のご審議により滞りなく終了いたしましたことに厚く御礼を申し上げますとともに、引き続き講演会・事例発表に多くの市民の皆様方、並びに関係各位にご参加を賜りましたことに、心より感謝を申し上げます。

さて現在、我が唐津港東港地区におきまして、国の直轄事業により耐震岸壁の整備が進められ、ようやくその完成が見えてまいりました。本日は国土交通省より松原大臣官房審議官にご臨席を賜っておりますが、審議官にはこの岸壁整備に関しまして、まさに計画段階から大変お世話になっております。この場をおかりいたしまして、心より感謝申し上げます。

この耐震岸壁はクリーン貨物を中心とした効果的な物流機能と、クルーズ船等の大型客船が寄港する観光港としての機能、そして大規模災害時の輸送拠点としての三つの機能をあわせ持つ岸壁でございます。

また、先ほどの総会で、次期代表をお務めになられます対馬の財部市長様から、せっかくこのネットワークがあるんだから、しっかりと各地域が連携をして、予算要望も一致団結で頑張っていこうという力強い言葉もありました。こちらのほうも、松原大臣官房審議官をはじめ、国土交通省の皆様方によろしく願いをいたしておきたいと思っております。

さて、昨年、唐津市はアメリカ合衆国グアム準州との友好交流意向書の締結を行いました。一昨年より始まりましたグアムとの貿易もさらなる拡大が予想され、東港の岸壁が

補完的な物流機能を果たしていくものと思われます。また、観光港としてクルーズ船の寄港に当たりましては、港に緑地もございますし、入港の際には唐津城や虹の松原など素晴らしいロケーションがございます。

平成17年には、福岡西方沖地震により唐津でも大きな揺れを感じ、東日本大震災におきましても日本中に大きな衝撃と爪跡を残しましたが、もし大規模な地震が発生した場合、耐震強化された岸壁が輸送拠点としての機能を発揮するものと期待を申し上げるところでございます。その耐震岸壁も、いよいよ平成28年の春には完成の見込みでございます。物流や人の交流拠点として、あるいは貨物船やクルーズ船が活発に行き交う活気ある港となりますように、今、供用開始へ向けて佐賀県と一緒に誘致活動を含めて、積極的に懸命な活動等を行っているところでございます。

こうした中で、今月17、18日に、にっぽん丸がプラチナエンターテイメントクルーズとして唐津港に入港いたします。今回は神戸発着で唐津のみを訪れる特別のクルーズでございます。船内ではソプラノ歌手のコンサートと、今日ご講演をいただきます世界のソムリエ田崎真也さん監修のプラチナディナーとワインの饗宴が催されるところでございます。

本日はそのご縁で田崎真也様と、にっぽん丸を運航されております商船三井客船株式会社取締役・嶋田和芳様によりご講演をいただけることとなりました。観光地としての心構え、ブランド確立の重要性、クルーズ船誘致のポイントなど、素晴らしいお話をお伺いできるものと大変楽しみにいたしているところです。

結びとなりますが、本日は大変お忙しい中、貴重なご講演をいただきます講師の皆様方へ、また多数のご出席を賜りました市民の皆様方、関係の皆様方へ心より感謝を申し上げまして、冒頭の私からの歓迎のご挨拶とさせていただきます。本日はまことにありがとうございます。